入学までの過ごし方がまるわかり！

入学準備 わくわく BOOK

ワンダーランド 保護者用特別付録





牧野カツコ 先生
お茶の水女子大学名誉教授。お茶の水女子大学附属幼稚園園長、宇都宮共和大学子ども生活学部長などを歴任。著書に『子育てに不安を感じる親たちへ』(ミネルヴァ書房)など多数。

小学校って楽しいところ！



新しい出会いがたくさんの小学校。入学前、何よりも大切なのは、保護者も子どもと一緒に小学校生活を楽しみにすることです。「小学校って"最高"に楽しいところだよ！」と、子どもにたくさん伝えてください。子どもはわくわくして、"最高"のスタートがきれるでしょう。

小学校生活にスムーズになじめるように、この１年間、どのように過ごしたらいいか、この冊子でお伝えします。

1 子どもだけで登下校する

これまでは、保護者や園バスの送迎で園に通っていましたが、小学生になると、子どもだけで歩いて登下校します。



2 45分×5時限分座る

小学校の授業は、１時限45分程度。一日５時限とすると、225分(3時間45分）も座っていることになります。



園と小学校4つの大きな違い

園生活と小学校生活ではいろいろなことが異なります。なかでも、実際に小学生になってから、戸惑うことが多い４つの違いについて、幼小連携に詳しい高柳先生にお聞きしました。保護者が事前に知って心の準備をしておくと、子どもが小学生になってから慌てることもありません。



高柳恭子(やすこ)先生
宇都宮共和大学子ども生活学部元教授。36年間、宇都宮大学教育学部附属幼稚園に勤務し、副園長を務めた。

3 給食の時間が短い

給食の時間は45分前後という小学校が多いですが、配膳や片づけを含めると実際に食べられる時間は短いものです。家庭でも時間を意識して食べる機会をつくりましょう。



4 自分で持ち物の管理をする

配られたプリントは自分で管理して持ち帰り、保護者に渡さなくてはなりません。また、園のときよりもプリントの量が増えます。



小学校生活をシミュレーション

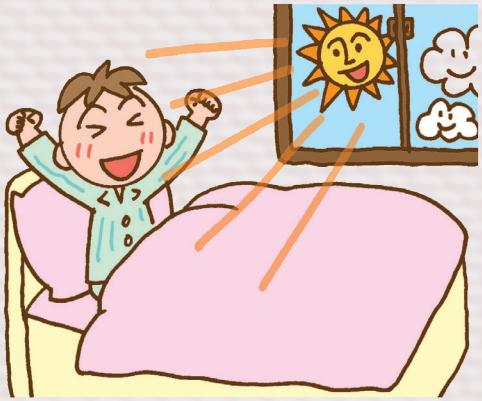
新1年生の一日

小学生になると、園とは一日の過ごし方がずいぶん変わってきます。１年生のタイムスケジュールを確認して、少しずつ小学校を意識した生活を心がけてみましょう。

※地域によって、時間が異なる場合があります。

6：00 〜 7：00 起床

園生活と比べると、早起きになるケースが多いようです。時間に余裕をもって起きるようにしましょう。目覚めの悪い子は、まず「太陽光」を浴びるとよいでしょう。



ポイント

園の生活リズムから、少しずつ小学校入学後のタイムスケジュールに合わせていく
→ P.6-7 参照

7：30 〜 8：00 登校

「集団登校」か「ひとりで登校」か、地域や学校によって通学方法は異なります。事前に確認し、通学するルートを親子で歩いてみましょう。

ポイント

通学路を子どもと一緒に歩いて、危険な場所はないかなどの安全確認をする→P.8-9

8：30 〜 12：30 授業

朝の会の後、授業が始まります。1 時限45分程度で午前中は4 時限まであります。45分間、椅子に座って先生の話を聞いたり、集中して授業に取り組んだりできるようにしておきたいものです。

ポイント

時間に沿った行動が必要→P.10-11、
遊びのなかで文字や数にふれる→P.16-19

12：30 〜 給食

給食を食べる時間は短いものです。時間内に食べ終えるよう、集中して食べる習慣をつけましょう。また、苦手なものを食べられるようにすることや、できるだけ残さないよう、食べられる量を知ることも大切です。

ポイント

配膳や片づけ、食べる時間など、時間配分を意識する→P.10-11

※入学してしばらくは給食がなく、午前の授業終了後に下校となります。

13：30 〜 15：00 下校

帰りの会が終わったら、下校となります。家が同じ方向の友だちと一緒に帰るようにしましょう。寄り道をしないで帰宅することも大切です。

ポイント

交通ルールを守り、安全に下校する→P.8-9

15：00 〜 学習・明日の準備

帰宅後、宿題などの家庭学習を行い、連絡帳を見ながら明日の学校の準備をします。忘れ物がないか、よく確認しましょう。また、学校から持ち帰ったおたよりはないかと聞くなど、子どもが思い出せるようにしましょう。知らせのあった予定は、子どもと一緒にカレンダーにメモします。

ポイント

持ち物を管理する→P.12-13

夕食・入浴

毎日できるだけ同じ時間に、夕食をとったりお風呂に入ったりするようにしましょう。ゆったりした雰囲気のなかで、一日のできごとを話し合えるとよいでしょう。

ポイント

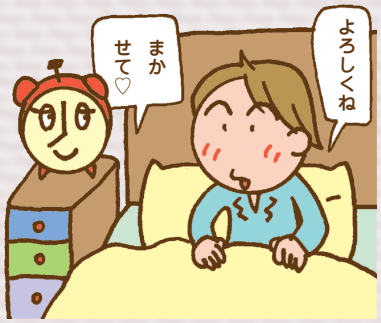
夕食や入浴時間を習慣づける→P.10-11

19：00 〜 就寝

小学校低学年に必要な睡眠時間は、9 〜12 時間。朝6 〜7 時には目が覚めるよう、睡眠時間を確保しましょう。テレビやゲームなどで就寝時間が遅くならないように注意しましょう。

ポイント

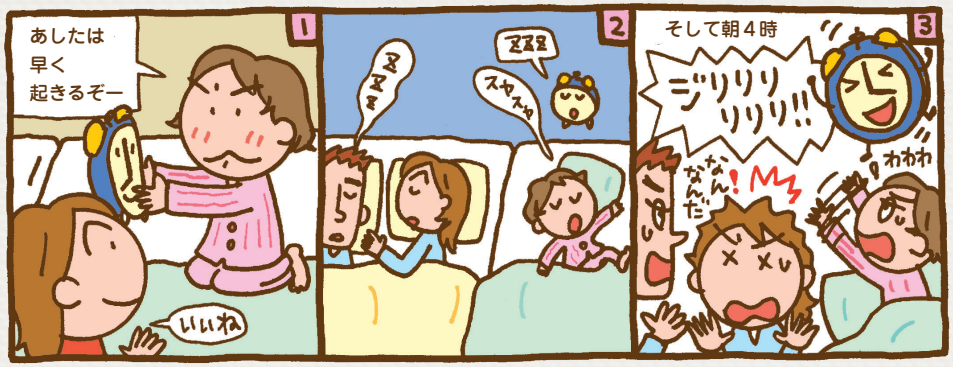
早寝・早起きの習慣をつける→P.6
テレビやゲームの時間を守る→P.10-11



小学校の生活スタイルへ

早寝＆早起き

入学までに、早寝・早起き、朝ごはんの生活習慣を身につけておくと、
小学校生活を毎日元気に送ることができます。



起きる時間を早くすると、寝る時間も早くなる

生活リズムを整えるためには、まず「朝早く起きる」ことが重要。決めた時間になったら、どんなにぐっすり眠っていても起こしましょう。カーテンを開けて朝日を浴びたり、顔を洗ったりすることで目が覚めます。一日のスタートが早くなれば、夜寝る時間も自然と早くなります。また、寝る前のテレビやゲームなどは寝つきが悪くなるため、絵本を読むなどして静かに過ごすとよいでしょう。



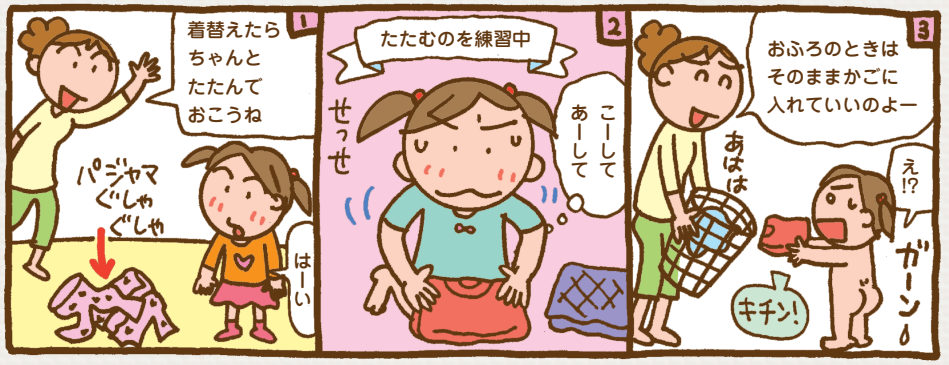
朝ごはんの時間を考えて起きる時間を決める

朝、忙しいからといって朝ごはんを食べずに登校すると、ぼんやりしてしまい、授業に集中できません。朝ごはんの時間を確保できるように、起床時間を決めましょう。だらだらと食べる理由は、空腹を感じていないため。朝、「おなかがすいた」と実感できるよう、ゴミ出しの手伝いをするなど、体を動かしたり日光に当たったりするとよいでしょう。



着替え・身じたく

ひとりで着替えはできても、脱ぎっぱなしになっていませんか？
小学校では体操着への着替えなどがあるため、洋服をたためるようにもしておきましょう。



短い時間のなかで着替えてたたむ

小学校では、短時間で体操着に着替えなければならないことがよくあります。今から、脱いだ服が裏返っていたら元に戻すことや、シャツやズボンなどを簡単にたたむことを少しずつ練習しましょう。入学までに、服をたためるようになるとよいでしょう。子どもが裏返しに脱いだ服を直していたら、「洗濯するとき助かる。ありがとう」とほめることで習慣づいていきます。



着替え・身じたくのポイント

・ボタン
上のボタンは見えにくいため、下のボタンから留めていくと掛け違いが少なくなります。



・服の前後や裏表
シャツ類はタグが内側についていることや、洋服の端がボコボコしているほうが裏だと伝えましょう。



・お尻を床につけないでくつをはく
小学校では一斉にくつをはきかえる機会が多いため、座らずに、しゃがんでくつをはけるようにしましょう。



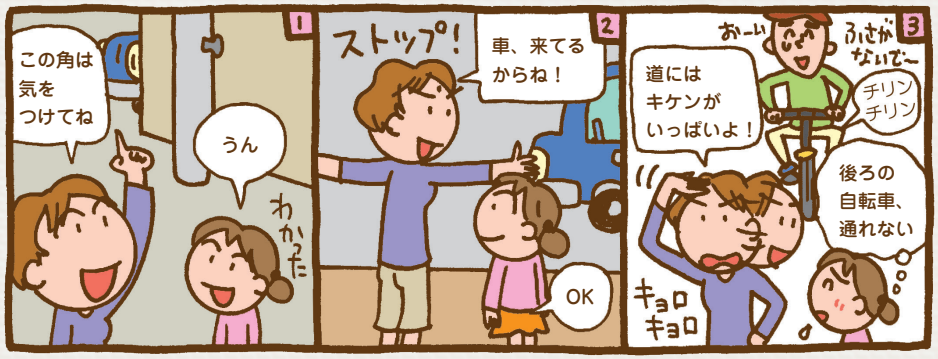
・和式トイレ
小学校には和式のトイレもあります。外出先で見つけたら、練習してみましょう。便器の前方にしゃがむのがコツ。



ひとりで安全に登下校

交通ルール&防犯対策

小学生になると、子どもたちだけで登下校したり行動したりする機会が増えていきます。入学前に、交通ルールの確認をしっかり行いましょう。



登校・下校する時間に子どもと歩いてみる

入学前に親子で通学路を歩き、学校まで子どもの足でどれくらい時間がかかるか、危険な場所はないかなどを確認します。登下校する時間にあわせて歩くと、実際の様子がわかります。危険を感じたときに逃げ込める「こども110番の家」の看板がある家やお店の位置も確認しましょう。



子どもの交通事故は「飛び出し」が多い

小学校低学年の子どもに多い交通事故は、「道路への飛び出し」。交差点などには「止まれ」の標識があります。「飛び出し」が危険なことを、この標識がある場所で教えると理解しやすいでしょう。横断が必要な場所では、どんなことに気をつけたらよいのか、きちんと伝えておくことが大切です。また、子どもは大人をよく見ているので、保護者がお手本となるような行動を心がけましょう。

道路を安全に横断するポイント

- いったん立ち止まる
- 手をあげて、「右・左・右」を確認
- 信号が赤に変わりそうなときは、急いで渡らず青になるまで待つ



犯罪に巻き込まれないために気をつけたいこと

••••• 覚えておこう！「いかのおすし」•••

子どもが自分の身を守るために必要なことをまとめた標語です。

まず、通学ルートを守ることが大切です。通学路は多くの人の目が届きやすいのですが、通学路以外の道を通っていたら、万が一のことがあった場合、発見が遅れてしまうこともあります。近道だからといって、公園や駐車場を通り抜けないように言い聞かせましょう。また、できるだけひとりにならないよう、近所の子どもたちが一緒に登下校できるように保護者間で話し合うとよいでしょう。

いか 行かない
「おいで」と言われてもついて行かない



の 乗らない
「車に乗って」と言われても乗らない



お 大声で叫ぶ
怖かったら、「助けて」などと大声を出す



す すぐに逃げる
「こども110番の家」やお店など、人がいるところへすぐに逃げる



し 知らせる
家族や先生など、まわりの大人に知らせる



バス・電車通学では貴重品の扱い方に注意して

通学ルートやマナーを守ることを伝えるほか、定期券の紛失にも気をつけましょう。脱ぐ可能性がある上着にはしまわず、ベルト通しにひも付き定期券入れのフックをかけて、ボトムスのポケットに入れることをおすすめします。定期券には駅名や名前が書かれているため、首やかばんに下げないなど、他人から見えないようにする工夫も必要です。



コラム 高柳先生より

通学中には思いがけないことが起こります

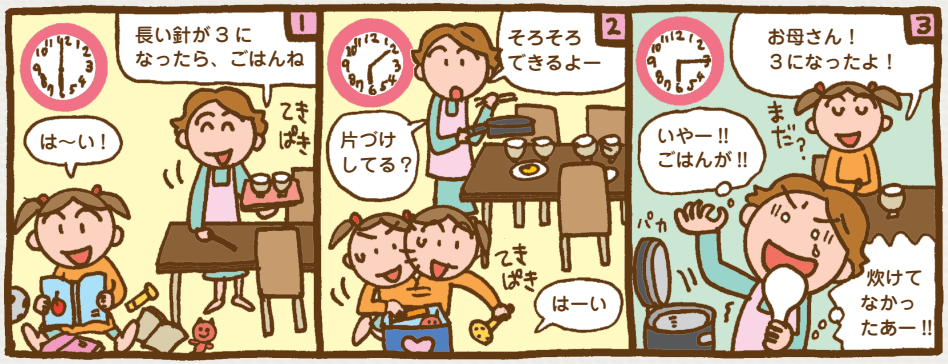
登校中、通学路の途中にあるフェンスに指を入れて抜けなくなってしまった子がいました。ところが、その子は誰にも言えず、まわりの子も気づかなかったため、しばらくその場にいたそうです。このように、通学中には思いがけないことが起こるので、まわりの大人に助けを求めてよいことを話しておきましょう。



時間に沿って行動する

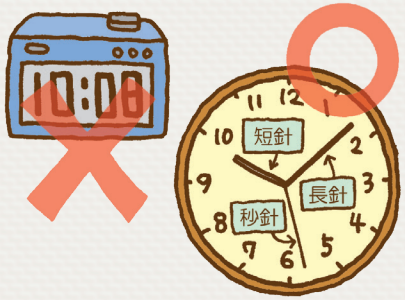
時間の管理

小学校では時間どおりに動かなければならないことが増えてきます。
今のうちに時間の感覚を身につけて、時間内にこなす力を育てましょう。



アナログ時計で時間感覚を身につける

時計の読み方は低学年で習うため、「○時×分」と正確に読めないからといって焦る必要はありませんが、日常生活のなかで時計に慣れておくことは大切です。その場合、デジタル時計よりアナログ時計を使うと、時間の長さを感覚的にとらえられるようになります。時計は数字がはっきりと書かれていて、秒針がついたものがおすすめです。



「まず、すること」を伝える

子どもに「出かける準備をして」「お風呂のしたくをして」と言っても、子どもは何からどう手をつけてよいのかわかりません。あっちもこっちも気になって、結局あたふたしてしまいます。そのため、保護者が手順を考えて、ひとつずつ段階ごとに指示すると効果的です。「先にごはんを食べよう」「トイレに行ってからパジャマを脱ごう」など、「まず、すること」を伝えることで、少しずつ自分で順序立てて行動できるようになります。



動画やゲームの時間をきちんと守る

子どもにとって、動画やゲームは熱中しやすく長時間続けてしまいがちです。まずは、子どもと話し合って、「動画は一日30分」などと約束しましょう。そして、キリのよいところで終わらせられるように、約束した時間の少し前に声をかけます。多少時間が過ぎても自分で終えられたら、たくさんほめましょう。また、見る動画は決めておくとよいでしょう。



「早く!」「まだ？」とせかさず、余裕をもった声かけを

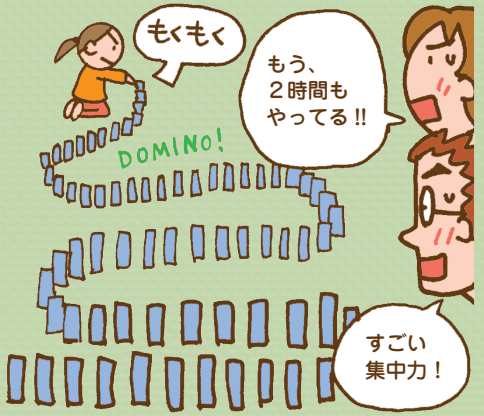
子どもが時間ぎりぎりで行動していると、保護者はつい「まだ?」「早くして!」などと口調がきつくなってしまいます。まずは保護者が落ち着くため、子どもに声をかける時間を10〜20分程度早めにするよう心がけてみましょう。時間に余裕があれば、子どもの行動がゆっくりでも、途中でアクシデントが起こっても、イライラすることはありません。



コラム　高柳先生より

好きな遊びに集中できる体験が、授業の集中にもつながります

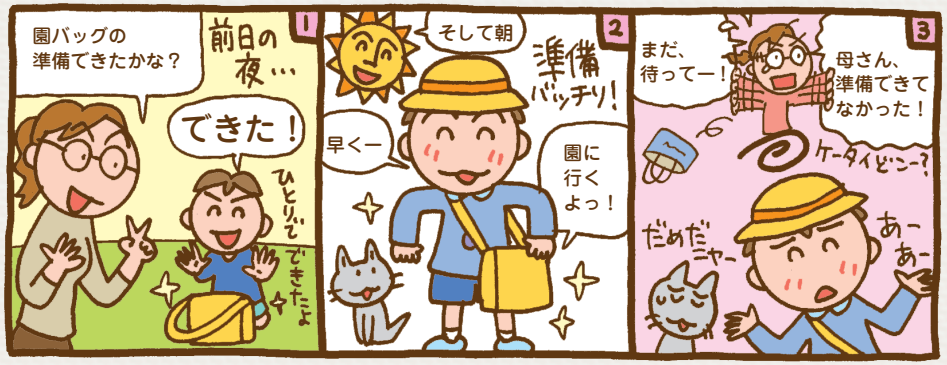
「子どもは集中力がない」というのは、大人の勝手な考えです。実は、子どもは自分が好きなことに対しては、2時間も集中できた例があります。ビーズやドミノなど、子どもの興味はそれぞれですが、集中してひとつのことに取り組んでいたら、大人が少し待つことも大切。子どもは、「集中できた」という体験を重ねることで、小学校の授業で先生の話をしっかり聞いたり、興味のない分野でも自分なりの課題を見つけたりして、積極的に取り組めるようになります。



自分の物は自分で片づける習慣をつけたい

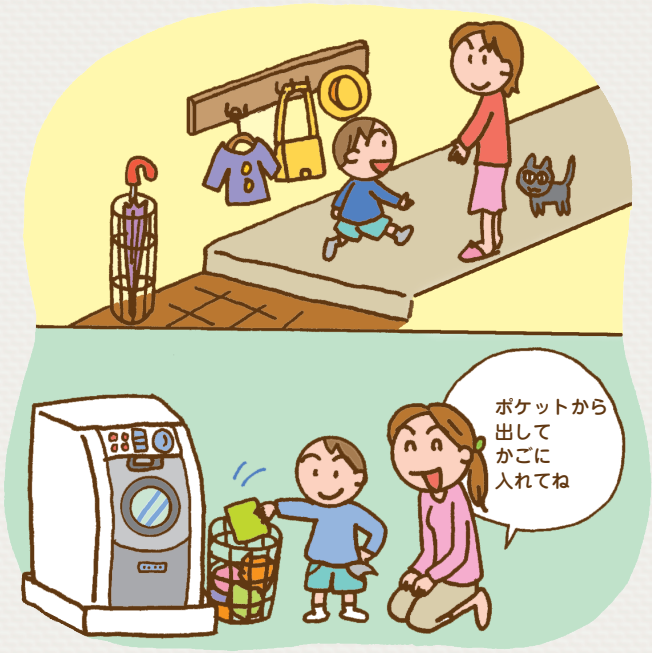
持ち物の管理

小学生になると、時間割を見て翌日必要な持ち物の準備や、学校の机やロッカーなどの管理も必要になります。今のうちから、園の用意を子どもと一緒にするようにしましょう。



物の置き場所を決めておく

子どもが毎日使う持ち物は、置き場所を決めておきます。そして、園バッグや制服、帽子、ハンカチ、ティッシュなどは、子どもが自分で管理する習慣をつけましょう。園から帰ったら、ハンカチは洗濯かごに入れる、ティッシュはポケットから出して決まった場所に置くなどと決めておけば、生活の流れが身につきます。



あれもこれもではなく、ひとつずつ取り組む

たとえば、「外出するときのしたく」には、トイレをすませ、着替えて、ハンカチとティッシュを持ち、くつをはく……というように、一連の流れがあります。そこで、まずはハンカチとティッシュを自分で準備するよう促してみましょう。ひとつずつていねいに取り組むことで、やがて「外出するときのしたく」のいくつもの段階を自分で進められるようになります。



見つからないときはまず探してみる

物の管理ができないと、物をなくしてしまうことがよくあります。子どもが「なくした」と言ったら、すぐに買うのではなく、まず探してみるように声かけをしましょう。持ち物には、自分の名前を書いたり、マークをつけたりするとよいでしょう。



小学校に持っていく物は意外と多い

1年生が毎日学校に持っていく物は、たくさんあります。教科書やノートのほか、筆箱、連絡帳……。さらに月曜日には体操着や給食着、授業によっては絵の具セットや鍵盤ハーモニカなども必要です。学年が上がると、書道セットやリコーダーなど持ち物が増えていくので、置き場所を決めたら、「使った後は元の場所に戻す」ことを習慣づけましょう。

毎日持っていく物	必要に応じて持っていく物
教科書	体操着
ノート	給食着
下敷き	鍵盤ハーモニカ
連絡帳、連絡袋	絵の具セット
筆箱	学習用タブレット
ハンカチ	など
ティッシュ　など	

コラム　高柳先生より

持ち物をなくしたら、先生に言いましょう

学校では「落とし物箱」があっても、落とし主はあまり取りに来ません。子どもに「自分の持ち物」という意識が低かったり、恥ずかしくて言い出しにくかったりする場合があるからです。持ち物をなくしたときは、先生に言えるように声かけをしましょう。

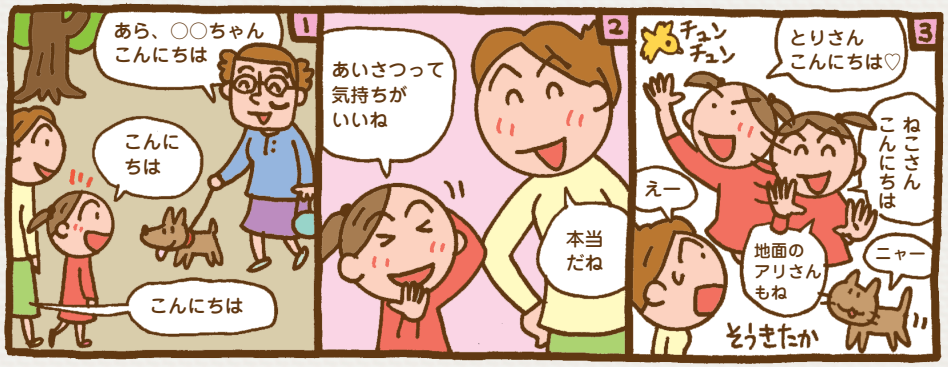


少しずつ社会性を身につける

コミュニケーション

（あいさつ・返事、意思表示、人の話を聞く）

名前を呼ばれたら返事をしたり、あいさつをしたり……。当たり前のことのようですが、入学までにできるようになっておくと、友だちや先生との関係づくりもスムーズです。



まずは親子であいさつする

子どもが朝起きてきたら「おはよう」、手伝いをしてくれたら「ありがとう」と、保護者から積極的に子どもに声をかけましょう。子どもは親の行動をよく見ているため、あいさつをするようになります。また、おしゃべりが苦手な子どもが、あいさつや返事ができたときは、「えらかったね」と笑顔でほめましょう。



してよいことと悪いことをきちんと伝える

小学生になると、ひとりで行動することも多いため、してもよいことと悪いことはしっかり伝えておく必要があります。なかでも、「人の心と体を傷つけてはいけない」ということはていねいに伝えましょう。もし、相手を傷つけるような言動が見られたら、「ちょっと傷ついたな」「そんなこと言われたら悲しいな」と、やさしく諭しましょう。



話をよく聞いてもらった子は、人の話も聞くことができる

子どもは、言いたいことがあってもうまく言葉にできなかったり、ゆっくりとしか話せなかったりすることがあります。それでも、保護者や園の先生に話を熱心に聞いてもらえると、子どもは「聞いてもらってうれしかった」「わかってくれた」と思い、自分も同じように人の話に耳を傾けられるようになります。



気持ちを落ち着けてゆっくり、わかりやすく

けんかをしていたり、悲しかったりして子どもの感情が高ぶっているときは、うまくコミュニケーションをとることができません。そんなときは、おやつを食べたり、手をつないで散歩に出かけたりするなど、気持ちがなごむ環境をつくってから、子どもとゆっくり話をするとよいでしょう。



自分の意思を伝えられるようになろう

授業中にトイレに行きたくなったとき、先生が「どうしたの？」と声をかけてくれるまで待つのではなく、自分の意思を伝えられるようにしておきましょう。たとえばお店で「トイレはどこですか？」と聞いてみるなど、入学前に、意思を相手に伝える体験ができるといいですね。



コラム 高柳先生より

子どもの思いをくみとって

まだ語彙が少ない子どものひと言には、思いがギュッとつまっています。私が園に勤めていたとき、登園してきた子どもに「金魚の水が温かかった」と言われたことがありました。そのときは、何を言っているんだろう？と思いましたが、後で振り返ったとき、この子は「毎日登園時に園の金魚の水槽に指を入れている。今日は外がとても寒かった。指を入れてみたら、水が温かく感じた」と言いたかったのだとわかりました。短いことばでも、子どもなりに表現しているので、大人はしっかり聞いて、きちんとした回答をすることが大切です。



楽しく授業を受けられるように

学習の心得

「小学校に上がったら勉強についていけるのか不安」という保護者も多いようです。授業を理解し、楽しく学習するためには、入学前にどのような準備が必要なのでしょうか。

現状

入学前にひらがなを読める子が大多数

テレビや絵本、お店の看板など、子どもたちの生活のなかには文字や数字があふれています。文字や数字にふれる機会が多いと、「これ、なんて読むの?」などと子どもは興味をもち、知りたがるようになります。入学までにひらがな（五十音）に親しめるようにしましょう。



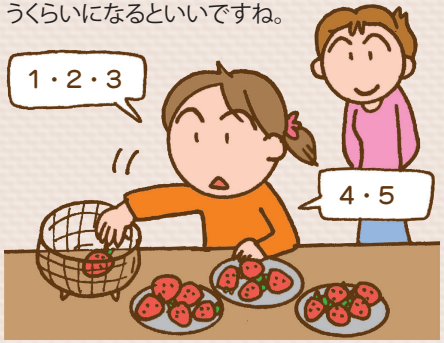
鉛筆に慣れておこう

ひらがなや数字を書く練習をする前に、鉛筆に慣れておきましょう。鉛筆はB か 2B を使い、正しく持てるようにしておきます。間違った持ち方をしている子どもの多くは、鉛筆をギュッと握りしめ、手に力が入っています。その状態では文字を書くことや線を引くことが大変で、授業に集中できず、学習への理解度が低くなってしまうこともあります。



遊びのなかで文字や数にふれよう

ひらがなを読めるようにしなくちゃと、机に向かって勉強をさせるのではなく、遊びのなかで文字や数字にふれる体験をたくさんして、興味をもてるようにすることが大切です。「書く」ことは後まわしにして、「読み」を優先させましょう。好きな本を何度も読んで、暗記してしまうくらいになるといいですね。



自然や社会への興味や関心に寄り添う

子どもは、水たまりがあったら入りたがり、階段があったら上りたくなり、虫がいたら捕りたくなるものです。このように、自然体験や社会生活のなかで、いろいろな興味をもつことが大切です。保護者は、「小学校で習うかもしれないね」「小学校の図書室にはいろいろな本があるんだって」などと、子どもが小学校での学びを楽しみにできるような対応をしましょう。図鑑や地球儀などを部屋に置いてもよいでしょう。子どもは知る喜びを感じ、学習意欲が高まります。



総合学習絵本「ワンダーランド」では、入学までに必要な「数」や「言葉」etc.考える力が楽しく身につきます。

「ワンダーランド」は、「数」や「言葉」のほか、「特集」「おはなし」「気持ち」ページなど、小学校入学までに大切なテーマがそろっています。たとえば、「数」はシールを使って、集合数や１対１対応、数の合成など、数への興味を引き出し、遊びながら考える力を養います。付録のあいうえお表や図鑑なども活用し、数や言葉、自然への興味や関心を深めましょう。



小学校で楽しく学ぶ力を遊びや生活から育みましょう



平山 許江（もとえ） 先生

プロフィール

子育てや大学院入学などの期間をはさみながら、断続的に幼稚園に20年間勤務した後、保育者養成の大学に勤める。現在は大学非常勤講師の傍ら、「保育楽者」の肩書で、保育者や保護者に楽しい保育のあり方を発信している。主な著書に、「ほんとうの知的教育」シリーズ、『平山許江の知育あそび』（ともに世界文化社）などがある。

就学前の遊びや生活を工夫することで、小学校に入ってから必要となる学ぶ力を身につけましょう。具体的に何をどう教えたらよいのか、平山許江先生にお聞きしました。

ひらがなの読み書きができる、足し算ができる、英語も始めなくちゃ……。入学までに子どもにどのくらいの学力を身につけさせたいかは保護者によって異なりますが、すべての教科で基本となるのは、「ことば」と「知的好奇心」です。では、どうやって子どもに教えればよいのでしょうか。

小学校の勉強では自分が「知らないこと」と「できないこと」にたくさん出会います。ですから、知らないことやできないことから逃げるのではなく、「知りたい・教えてほしい」という気持ちをもつことが重要です。

気をつけたいのは、文字や数など学校の勉強のようなことに対して、間違いを厳しく指摘しないことです。歌や体操では間違えても笑顔で拍手を送っているのに、「勉強っぽい!?」ことになると許せない保護者は多いでしょう。しかし、「あらら、ちょっと違ってるみたい」くらいのおおらかな対応を心がけましょう。「知らなくて当然、間違えても平気。そのために学校に行くのだから」と考えて、何よりも子どもを「勉強嫌い」にしないことが大切です。

また、「今までできなかったことができるようになった」「新しい発見があった」など、子どもが喜びを感じられる体験をしたときは、保護者も一緒に感動してください。保護者はつい、「五十音を全部覚えた」「100まで数えられる」と、今どこまでできるかに目を向けがちですが、今がゴールではありません。ゴールはずっと先ですから、「もっと知りたい」「勉強はおもしろい」という気持ちを育むことが大切です。子どもの「やりたい」「知りたい」気持ちを引き出す遊びをたくさん体験できるよう、働きかけましょう。





…… 学ぶ力を育む体験例 ……

☆「の」の字探し

新聞紙を１枚広げ、家族で囲みます。それぞれが違う色のマーカーを持ち、新聞に書かれている文字のなかから「の」の字を探して○をつけましょう。



☆いろいろ文字集め

画用紙を46枚用意します。雑誌や広告などを見て、「あ」から「ん」までの文字を切り抜き、同じ文字をそれぞれ同じ画用紙に貼ります。



☆ひらがなビンゴ

５×５（または３×3）のマスのビンゴ表を作り、好きな文字を記入します。保護者は「い」などと1文字ずつ読み上げ、子どもはその文字を○で囲みます。



☆買う物を覚える

買い物の前に「牛乳を買うのでよろしくね」と、子どもに頼んだり、メモを渡したりして、確認させます。記憶した物を思い出す練習になります。



☆配膳の手伝い

はしやスプーンを「１人に１つずつ」配ります。これが数の理解の基本「１対１対応」につながります。



☆「分類」して片づける

いろいろな物を「基準」に従って分けます。すべての物が分類できるように、「基準に合わないもの」を入れる場所も用意しておくことが大切です。



世界文化ワンダーランド

-Contents-

園と小学校4つの大きな違い…P.3
新1年生の一日 ……P.4
早寝＆早起き ……P.6
着替え・身じたく ……P.7
交通ルール＆防犯対策 ……P.8
時間の管理 ……P.10
持ち物の管理 ……P.12
コミュニケーション ……P.14
学習の心得 ……P.16



ワンダーランド保護者用特別付録

監修／平山許江（保育楽者）
町山太郎（まどか幼稚園園長・玉川大学教育学部他 非常勤講師）
取材／牧野カツコ（お茶の水女子大学名誉教授）
高柳恭子（宇都宮共和大学元教授）
イラスト／Igloo*dining*（表紙・P.2～3） 山口まく（P.4～19）
編集協力／吉野 玲　デザイン／坂田良子

発行／株式会社世界文化ワンダーグループ
〒102-8192　東京都千代田区九段北4-2-29
電話／本の内容について　03（3262）5121
その他お問い合わせ　03（3262）5128
校正／株式会社円水社

©Sekaibunka Wonder Group, 2027.
無断転載・複写を禁じます。